



開所日時 月・水・木・金曜日
15 時～18 時
土曜日 10 時～13 時

児童デイ 主活動について

◇主活動の目的

児童デイでは、日課の中に「主活動」の時間を設けています。内容は週ごとに異なり、工作やクッキング、季節にちなんだ行事など室内外で様々な活動を行っています。

遊びや作業を通して友だちとの交流を図ったり、学校や家庭では体験できないことに挑戦し、新鮮な感動や興味関心を引き出すこと等が主活動の主な目的ですが、その中で最も重点を置いているのは「高すぎる目標設定をせず、無理なく取り組んでもらうこと」です。

その為、毎回利用する子ども一人ひとりの特性に合わせて工程を調節したり、集中できるように環境を整え、「できた!!」という達成感が得られるよう配慮しています。

◇無理に参加はさせません

毎回こちらの見立てがうまくいくとは限らないので、「本人にとってハードルが高すぎる」、「これ以上やっても本人にとって苦しいだけで意味がない」と判断したときは中止することもあります。

また、何らかの要因によって大きなストレスを抱えてデイにやってきた場合、(この時期だと、卒業式などの学校行事の練習や花粉症の影響が考えられます)無理に活動に参加させることで更に負荷をかけてしまう恐れがあると判断した場合には、活動を「休んでもらう」こともあります。(本人に参加の意志がある場合は別です)

活動を通して興味の幅が広がったり、達成感を得られることは自立に向けてとても大切なことである一方、外部からの緊張やイライラから解放され、「休む場」を提供することも児童デイの役割であると考えています。



それぞれの特性に合わせた方法で行う「買物体験」の様子

介護とインフォームドコンセント

▼医療現場・・・

ある利用者さんの話の中で、病院の診察で最近の医師は「電子カルテ」にかかりきりになって、パソコンの画面を見ているだけで、患者と向き合って話しをしていない・・・そして、皮膚科医に「体が痒いんです」と症状を伝えたら、患部も見ずに「じゃあ、かゆみ止めを出しておきますね」と言われただけで終わった。

医療現場で「インフォームドコンセント」ということばが使われて久しい。患者の症状や医療について、医師の説明責任があり、医療についての同意を求めるときには患者と十分な話し合いが必要であると言われている。医師と患者は人と人との対等な立場にあるが、現実には、患者は医師を前にして何も聞けずに済んでしまうこともある。

▼介護現場・・・

介護の現場においても、「インフォームドコンセント」の考え方は必要である。挨拶に始まって、介助の一つ一つに声かけを必要とする。介助者は黙ってする介護ロボットではない。人対人との会話の中で、例えば「〇〇さん、今からお風呂に入ってさっぱりしましょうね・・・」などと介助する前に事前説明の声かけをし、利用者の同意があつて次の介助が行える。決して、背を向けて会話したり、遠くから話しかけたりは禁物である。笑顔で、面と向き合い、適切な声かけをして介護を行なうよう心がけたい。



ミニデイだより

手作りカレンダー



少し時期がずれてしまいましたが、利用者さんと『まごころカレンダー』を作りました。各月に合わせて好きな図柄を選んで、ちぎり絵や水彩、色鉛筆などで思い思いに色つけをいただきました。去年は新聞紙のカラー面でちぎり絵をしましたが、今回は本格的に和紙でチャレンジ。

色とりどりのきれいな和紙を目の前に、「難しいわ〜」「ちぎるのがもったいないわね」などとおっしゃられながらも、皆さんとても熱心です。形を下書きしてからちぎったり、細かくしたものをのりで貼り合せたり、または和紙に絵の具で色をのせたりと、個性豊かな作品たちが出来上がりました。

「この日は私の誕生日ね」とハートで囲って名前を入れてくださった方もみえて、なるほどグットアイデア!と、利用者さん全員のお誕生日も入れることにしました。 カラーコピーをして、今年2月から来年1月までの手作りカレンダーの出来上がり!

「家で枕元に飾っているよ」「ちょうどいいサイズ」「自分が作った月が来るのが楽しみになるわね」などとなかなか好評のまごころカレンダーです。



折り紙のひな人形

心づれづれ



心に残る可愛い動物

利用会員 尾関恵美子

第一は何と言っても「犬」。友人からもらった仔犬がとても可愛くて、散歩に連れて行くと、ぬいぐるみのような犬だねって多くの人に言われた。だから楽しい思い出が多くある。その犬も我が家の主人を助けるように、主人が交通事故にあった時、身代わりのように死んでしまった。死ぬ時、私と子ども二人、三人の顔をじっと見つめて、ありがとうと言うように…私はそれから犬を飼うことはなかった。また死なれると悲しいから。その犬は現在私の傍のワゴンの上で見守ってくれている。

第二は「雀」。主人が散歩の時、弱って道にいたのを拾ってきたのを見て、この人は優しい心もあるものだと思直したことを覚えている。でも雀は家で育ててはいけないと友人に言われて、丈夫になるまで育て、一ヶ月位で飛ぶようになったので、神社へ行き解放した。しばらく経過した時、私の家の塀に留まって私の方を見て、私が気がつき「帰って来たの!」と声をかけると、判ったように飛んで行った。私はその時、小動物でも助けてもらったことは判るんだなと感じた。人間はもっと人に優しくしなければと感じたのです。

足なえて 尊きを知る 今の我
デイサービスの迎えに ありがとう

主婦の役 果たせぬ我に 涙ぐむ
ヘルパーさんに ありがとう

